

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

進んで学び 高め合う子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

前年度、学力向上の素地ということから、朝読書・放課後学習・家庭学習に取り組んだ。その成果として、朝に落ち着いて読書する子供たちの姿が見られるようになり、放課後学習においても授業の中で理解することが難しかった児童の支援もある程度補うことができた。しかし、家庭学習については、学級ごとの取組にとどまっていた。家庭学習による学力向上をより確かなものとするためには、学校全体で同じ考えで取り組むことや保護者の協力が大切であると、学力向上対策委員会で話し合われ取り組むこととなった。

2 取組の位置付け

・学力向上対策委員会が中心となり、全校で推進している。

3 取組の方法

(1)家庭への啓発

- ① 「家庭学習の取り組み」についてのお便りと保存版の「家庭学習の手引き」の配布…7月4日
- ② 参観日の懇談会で説明…7月10日・11日
- ③ 学校通信にて「家庭学習の意義」のお知らせ…7月25日

(2)学年の発達段階に合わせた取組

- ① 児童用手引き「れっつかていがくしゅう」（低・中・高）の指導・配布
〈れっつかていがくしゅうの内容〉
 - (1)家庭学習のめあて (2)家庭学習の前に (3)家庭学習のめやす時間
 - (4)家庭学習の約束 (5)家庭学習の内容（例） (6)家庭学習が終わったら

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

高盛小学校では、前回の「教育課程担当者研究協議会」で、今年度「家庭学習」を学校として取り組むことを報告しました。2学期終了時点での家庭学習の取組の成果は、以下の通りです。課題も見られます。

成果

- ・学習習慣が定着した。
- ・学習内容を復習し定着が図れている。
- ・学習のつまづきが把握できた。
- ・最後までやりきる力がついた。
- ・集中力・根気など、自分への厳しさが育った。
- ・取組方を紹介して、取り組む児童が増えた。
- ・担任の声かけやコメントの記入でやる気が出ている。
- ・漢字テストの平均点や九九の練習問題の正答率が上がった。
- ・提出をチェックすることで取組が増えた。
- ・親と子のコミュニケーションの場として有効である。
- ・授業の学習内容をより確かなものにできている。

課題

- ・全ての児童や保護者が共通の意識で取り組めるよう、さらに働きかけが必要。
- ・苦手な分野を補充してほしいが、得意なものを選んで取り組む傾向にある。
- ・「継続は力なり」このまま続けたい。
- ・基礎から発展的な学習へ移行できると良い。
- ・家庭学習に取り組むことが自分の力になることをしっかり伝えていく必要がある。

○ 教育課程検証の方法

- ・学校評価での職員による評価
- ・保護者アンケートでの保護者による評価
- ・学校評議員会での地域の方々による評価